

田島中学校区 学校適正配置検討会議（第3回） 会議録

1 日 時 令和2年10月23日（金） 午後7時から

2 場 所 田島小学校 図書室

3 出席者

（委員）

岩井 徳次委員、宇杉 清治委員（座長）、大倉 裕子委員、荻田 真司委員、
鐘田 昭子委員、北山 泰利委員、中島 孝治委員、福田 成隆委員、
船井 静香委員

（学校）

藤本 睦子（田島中学校長）、竹口 和代（田島小学校長）、木村 幹彦（生野南小学校長）

（教育委員会事務局）

山口 照美（生野区長兼生野区担当教育次長）、櫻井 大輔（生野区副区長兼生野区教育担当部長）、花月 良祐（総務部学校適正配置担当課長兼生野区役所地域活性化担当課長）、大川 博史（地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長）、三宅 俊之（総務部学事課学校適正配置担当課長代理兼生野区役所地域まちづくり課地域活性化担当課長代理）、二川 康裕（総務部施設整備課老朽対策担当課長代理）、川楠 政宏（地域活性化担当課長代理兼教育委員会事務局総務部教育政策課生野区教育担当課長代理）、吉沢 雄（指導部総括指導主事兼総務部教育政策課総括指導主事、学事課総括指導主事）、松本 宏晃（学事課担当係長）、竹中 一郎（生野区役所地域まちづくり課担当係長兼教育委員会事務局総務部教育政策課担当係長）、白石 秀一（生野区役所地域まちづくり課係員兼教育委員会事務局総務部教育政策課係員）、西川 明宏（生野区役所地域まちづくり課係員兼教育委員会事務局総務部教育政策課係員）

（傍聴）0名

4 議 題

（1）校名案及び通称案について

5 議 事

（竹中生野区役所地域まちづくり課担当係長兼教育委員会事務局総務部教育政策課担当係長）

皆様こんばんは。それでは時間になりましたので、田島中学校区学校適正配置検討会議のほうを開催させていただきます。皆様お忙しいところお集まりいただきましてどうもありがとうございます。本日司会を務めさせていただきます、生野区役所地域まちづくり課兼教育委員会事務局総務部教育政策課担当係長の竹中でございます。よろしくお願ひします。

本日は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、皆様マスク着用で会議のほうよ

ろしくお願いします。また本日も円滑な議事進行にご協力くださいますようお願いいたします。

開会に先立ちまして、生野区長よりご挨拶のほうをさせていただきます。

(山口生野区長兼生野区担当教育次長)

皆さんこんばんは。お忙しい中お集まりいただき、ありがとうございます。

本日は校名を決めるということで、たくさんの学校もご協力いただいて、応募がありました。また会館のほうにも投票箱を置いていただいて、まことにありがとうございます。本当にたくさんありますので、どのように選ぶかということも含めて、円滑に議事進行できるようまたご協力もよろしくお願いいたします。またその他ご意見がありましたら、この場で共有していただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

本日はよろしくお願いいたします。

(竹中生野区役所地域まちづくり課担当係長兼教育委員会事務局総務部教育政策課担当係長)

今回の会議より、委員の交代のほうがございます。ご紹介のほうをさせていただきます。田島小学校の学校協議会から出ていただいていた光山委員に変わって、田島小学校区地域から岩井 徳次様に委員として参加していただきます。

(委員)

岩井です。よろしくお願いいたします。

(竹中生野区役所地域まちづくり課担当係長兼教育委員会事務局総務部教育政策課担当係長)

お手元のほうに委嘱状のほうを置いておりますので、またご確認ください。

これから会議のほうを進めさせていただきますけれども、会議録作成のため録音させていただきますことにつきましてご了承くださいませようよろしくお願いいたします。なお会議録につきましては、録音データを含めまして、公開請求等がある場合公開の対象となりますことについてご同意いただきますようお願いいたします。録音の関係上、発言の際はマイクのほうを使用させていただきますようどうぞよろしくお願いいたします。今回は座長のほうに議事進行のほうよろしくお願いいたします。

(委員)

皆さんこんばんは。夜分お疲れのところをご参集いただきましてありがとうございます。この間からアンケートボックスを配置しておりましたが、19日に締め切らせていただきました。応募をいろいろいただきました。ありがとうございます。今日は新校名につい

でご検討いただけますようお願い申し上げます。それでは事務局のほうから経過の報告をお願いします。

(三宅総務部学事課学校適正配置担当課長代理兼生野区役所地域まちづくり課地域活性化担当課長代理)

こんばんは。教育委員会事務局学校適正配置担当課長代理の三宅と申します。生野区役所のほうの地域まちづくりの地域活性化の担当課長代理も兼務しております。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは説明させていただきます。前回の第2回の検討会議でご意見をいただきまして、9月18日から校名案・通称案の募集のほうを開始いたしました。当初は10月9日締切というふうにしておったんですが、募集期間を延長しまして、19日に締切をしました。302通の応募用紙の提出がございまして、うち小学校名については218件、一貫校の通称につきましては149件の応募をいただいております。なお学校名と振り仮名、理由をお書きいただくこととしておりましたが、不備がございましたものについては除かせていただいております。

本日の検討会議のほうでは、たくさん応募をいただいているんですが、児童・生徒の方にアンケートをしていくために、校名及び通称名をともに各5案ずつに絞っていただければというふうに考えております。

案を選んでいただく上で、参考資料のほうを用意しております。参考資料1-1なんですが、こちらのほうは新しい学校の校名案を五十音順に並べたものでございます。それから参考資料1-2は、新しい学校の校名案が地名等に由来したものと、それからそれ以外のものというふうに分けて五十音順に記載しております。左の2列が地名等に由来したものでございまして、右端の列につきましてはそれ以外のものというふうになっております。それから参考資料1-3でございまして、こちらは新たな学校の校名案、その振り仮名、それから理由とその校名案の応募件数を右端に載せております。それから参考資料2-1から2-3につきましては、今の校名案と同様の仕分けの仕方をしたもので記載しておりますので、よろしくをお願いいたします。

説明につきましては以上になります。

(委員)

今の資料を見ておると、たくさんの校名の参考資料がありますけれども、これにつきましてどういうぐあいな方法で新校名を決定していくか、まず皆さん方の意見をお聞きしたいと思っております。どなたか。お願いします。

(委員)

皆様方にお聞きしたいことがございます。校名の、私のほうも萩田くんから聞きましたの

で、協力をさせていただきました。しかしながら、この学校再編の始まりは、とりあえず私のお願いしたことは、まず地域の方々の7割方8割方の了解を得とって進めてくださいと、こう申し上げておったことでございます。そして返事をいただいたのは、そうしたら田島小学校は残しますと、田島小学校でいきますということで返事をいただいたわけです。まずこの辺のところからお聞きしていきたいなど。どうして、いつの間にか知らんけれどもこの田島小学校の名前が消えて、いつの間にか知らんけれどもこの田島中学校の運動場に校舎を建ててやると。既存の小学校があるのに何かということの疑問もございますので。そして、何で田島小学校が勝手になくなって、こういう形になったのか、その経緯を一つお聞かせ願いたいと、こう思っております。よろしく申し上げます。

(委員)

ただいまの委員さんのご発言に、済みません、何か少しでもお答えいただけたらと思います。事務局のほうよろしく申し上げます。

(大川地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長)

失礼します。生野区教育担当課長大川です。生野区役所地域活性化担当課長です。

今、委員からございました、生野区の学校再編の取り組みにつきましては、もともと平成25年ぐらいからいろいろご議論いただいてきたところです。その後、平成28年の春に生野区の西部地域学校再編整備計画というものを公表いたしました。その時点では、この田島中学校区につきましては、田島小学校に再編するという案で当初出させていただいております。それ以降、各小学校区ですとかいろいろ説明会もしくは意見交換を重ねていきます中で、この田島中学校区でいくと、田島中学校の場所を使うことによってちょうど中間的な位置になるよう、児童の登下校の問題、それから距離の問題、そこで遠くなるという部分が解消されるのではないかといったご意見を頂戴してきたところです。

以降、区と教育委員会のほうで検討を重ねまして、平成29年の年末にまずこの田島中学校区の学校再編整備計画素案というものを策定いたしました。その素案の中では、当初の案であります田島小学校に児童を集約するといった案、それとあと田島中学校の中に校舎をつくって、そちらのほうで小学生児童を入れて小中一貫にするといった案、この2案を併記してまいりました。そこからいろいろとご意見を頂戴していきます中で、いろんな意見がございました。その整備計画の素案をもとに、いただいた意見を踏まえまして、あと学校運営の問題ですとか、そういった児童の安心・安全の問題、いろいろと検討してきた中で、平成30年9月に学校整備計画案というものをつくらせていただいております。その案の段階で、今の田島中学校の中に小学生の新校舎を増築して、小中一貫校という形で行政の案として1つに絞ってきたといったところです。ただ本来でしたら、それ以降学校設置協議会というものを設置して、そこでさらに意見をいただきながら積み上げてやっていこうといった進め方の予定だったんですけれども、そこに至らなかつたといった状況がございます。そちら

につきましては非常に申しわけないと思っているところなんですけれども。

あとつけ加えて言いますと、それ以降にいろいろ地域の方の思いですとか、もしくは議会・市会での議論、そういったいろんな状況がございまして、昨年の秋以降、教育委員会のほうでいろいろこの生野区の学校再編の取り組みをどうしていくかといったことを議論いただいてきたところです。その教育委員会での議論と、あと今年1月に市長と教育委員の協議の場であります総合教育会議といったものがございまして、そちらのほうで議論がなされまして、今の平成30年9月の学校整備計画案の内容で、こちら田島中学校区については再編を進めていくといった市としての方針が決定されたといった経過がございまして。

ですので、これまでいろんな説明会とかでお叱りを頂戴しているところですが、これまでの取り組みの経過ですとか進捗状況といったものが、正確に正しく地域・保護者の方に伝わってこなかったといったことのご指摘は重く受けとめているところです。ですので、今、経過は申し上げたとおりですけれども、この検討会議も含めまして、きっちりご参加いただいている委員の皆様だけでなく、地域・保護者含めて広く状況を随時お知らせできるようにしていったまいると思いますので、よろしく願いいたします。

(委員)

ただいま大川さんからいろいろ説明をいただきましたが、えらい長い説明やったな。

それで、とりあえずこの経過はともかく、我々の知らないところでいろいろ話し合っていた場で、地元の者は何やわからへんと、急に何か決まったような形で出てきたやないかというところで、田島連合でも今とにかく大変な議論の最中ですよ。それで、それやったら、最初にこの私の申したとおり、地域の7割方8割方の賛成を得てこいということと、それやったら田島小学校を残しますということで、約束事に決まってるのに、それと変わったら変わったというようにやっぱし説明に来てくれなあかん。何や勝手に変えて、おまえら俺らの言うこと聞かんかいと、これはもうあかんなというところで、せやから何か遠いところで議論されて、地域は何もわかっていないというところですよな。

そして、これ、今決めることは10年や20年のことちゃうわけですよ。これで今決まったことは、ずっと、何十年、50年60年とずっと続いていくような、いろんな学校の形態ですよ。だから今我々がここでしっかりともっと議論をして、どうしたら、何が一番ベターなのかというところで学校再編を進めていったら一番いいんやないかということで、地域のほうの方々もこの意見が大変多いわけですよ。だから、とりあえずこの地域を抜いて、何か遠いところで議論して、こうやねんと上から下ろしてきてということは、言い方が悪いが知らんけれども、この辺地域の方々でないようなところで、遠いところで議論されて、地域の人は何もわからないというような、こんな偏執なやり方では、ちょっとこれはしんどいなというところです。我々は何が何でも反対というのと違うんですから、もっとそれやったらそれで、最初のそういう約束事が何で変わったかということの説明ももっと早よやってほ

しかった。勝手にこうやりますと言われて、勝手に変えられて、何やわからんところでどんどん進んでいくやないかというところで、せやから地域の人も何もわからんところでこれやっておるわけですけれども、そういうところで今現在、学校名決めるとかどうやとかというような形になってきたように思いますわ。

だから、これは最初に何か知らんけれども、田島小学校は残しますということが、何でも変わったかということの説明をもっと親切に、何でもかということ言うて、私が地域に帰って説明できるような形でやってほしいなと、こう思っておりますということですよ。

(委員)

委員のお話はごもっともでございますけれども、いろいろ学校設置協議会の中で…

(委員)

ちやうがな。せやろ。あんたが全部決めるのちやうやん。

(委員)

私が決めていません。設置協議会の中で一応こういうような話で前に進んできて、地域の皆様方にもご説明して、お話しもしています。

(委員)

ちょっと待て。せやから俺は言うたやろ。

(委員)

今日はけんかをする場と違います。

(大川地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長)

失礼します。座長、よろしいでしょうか。

今、委員、座長のほうからございましたとおり、地域の方はいろんな思いがさまざまあるというのは重々認識しています。先ほどの繰り返しになりますけれども、本当にこれまできっちりとお話をお伝えしきれていない、正確にもお伝えできていないということ、これは真摯に反省しているところです。ですので、今委員のほうからもございました、宇杉座長のほうからも、両地域本当に皆さんが諸手を挙げて賛成というわけではないというふうな話も伺っております。ただ今回またきっちりとしたご要請がありましたら説明をさせていただきますけれども、今回は子どもの安全安心といったこと、そういったことでいろんな議論を今後前向きに進めていければと思っております。確かに、一回校舎が建ってしまうと数十年といった状況になってまいります。その中でいかに児童・生徒も含めて、あと保護者の方、地域の方に見守っていただきながら、いい学校をつくっていけるように我々は精いっぱい

いやっていきたいと思いますので、また説明が至らない点、いろんなご意見をまた今後お伺いしながら進めていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いたします。

(委員)

それで今回はこれをどういう形で進めていくわけ。

(大川地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長)

この検討会議の場が、一応今ある計画、30年9月の学校整備計画案と同じ内容にはなっていないかもしれませんが、その内容で令和4年4月に田島小中一貫校、仮称です、名前は今から議論いただくことになってはいますが、そこに向けてどういった形で子どもたちの安全安心を守っていくかといったこと、もちろん学校名もそうですし、通学路の安全対策、それ以外のこれから標準服ですとか校歌・校章、そういったものをこの場で議論いただきながら決めていくといった進め方になってまいります。ただ本当に繰り返し恐縮ですが、ここで議論いただいている内容というのを、きっちりとして、できるだけ速やかに地域の方、保護者の方にお伝えすることができるように、私どもも準備をしておりますので、またそちらにつきましてもご協力のほうをよろしくお願したいと思っております。

(委員)

それで、私のほうも何もこの田島小学校をどうやというようなことで、この話を連合の町会長、女性部長、副部長に話しておるわけでもないんですけども、やはり田島は田島の皆さん方の、地域の話もやっぱし私の立場として聞かねばならないところですね。

それで、とりあえずこの田島小学校を残して、とにかく全生徒をこの田島小学校でやれというようなことを、今さらこれを言うてもしんどいかなと私は思っております。思っておりますけれども、やはり最低の条件として、この田島小学校を残すこと条件として、やはり生徒がおらんことには残らないということになりますので、煎じ詰めたらね。だからこの前もいろんな方との話の中で、誰と話したかということは控えますけれども、4年生から6年生、あるいは1年生から3年生、全生徒やなしに、半分は田島小学校で授業をするということの確約をしてくれというような話をいろいろしてまいりました。そうせんことには、空の学校が残るわけがないわけですから、とりあえず運動場を使うだけでは学校は残らないということは、やはり生徒が授業するような形を取っていただくことには、校舎が、やはりこの前の台風やないけれども、体育館の屋根が飛ぶ、あるいは校舎がすべるといようなときに、地域ではとてもそんなもん直す金もなし、やはり教育委員会が責任を持っていたいて、その上でちゃんと確約をしていただくというような形等々ございますけれども、せやからそういう形をやはりつくっていただきたいというようなことで、地域の方々のお願というところがございます。

以上です。

(委員)

それでは本日のメインでございます、新しい学校名を一応5～6件選んでいただくように、皆さん方のご意見も伺いながら、参考として進めていきたいと思っております。皆さん方どうでしょう。

(委員)

それは学校を残す名前の云々になってきたら、これはやはり地元の地域、例えば生野南は生南の名前を残してほしい、あるいは田島小学校の名前を残してほしい、これは当たり前ですわ。だからそれを今議論したかて、皆自分のところの名前やいうことになると思いますわ。

私の思うのには、この田島や生野南や言うてようけ名前をつけるよか、やはりその名前をなるほど消すのはもったいないけれども、やはり新しい名前ですらどっちもけがないかなと、そう思っております。ただし、やはりその名前もどうするのということになりますけれども、やはり私の最低条件としたら、田島小学校に半数の生徒を残して授業をするという形になったかて、その名前ですきたいなど。皆さん方のご意見というのはいわかりませんが、田島や何や言うたって、どっちにしたかて結局は後にしこりが残ると思いますわ。だからその点を考慮いただいて考えていただいたらええかなと、こう思っております。

(委員)

ただいま委員から、全く新しい名前をつけてはどうかというご意見がございました。そのほかに皆さん方から何かご参考になるようなアイデアはございますか。

(委員)

岩井さんと違うことを言わせてもらいますけれども、小学校は70年の歴史を積み重ねています。その中で、また地名も何もこの間できたような地名じゃないので、僕の個人的にはやっぱり由来した名前をすることによって、地域の思いとか、僕はみんな注がれるんじゃないかなと思います。

岩井さんもそういうふうな思いやというところがありますので、それぞれの地域が納得する形がいいと思います。ここでどンドン決していく作業にどうしてもなっていくんですけども、そうじゃなくて、そういった新しい名前も含めて、そうやってリストアップしていくという作業をしていく中で自然に落ち着く議論になればなと思っております。これは実は岩井さんの気持ちも含めて私は意見します。

以上です。

(委員)

ただいま貴重な意見ありがとうございます。それぞれの地域の名前をなくすのも名残惜

しいなというような意見だと思います。皆さん、ほかに参考になるような意見はどうでしょう。

(委員)

今これ、自分たちでそれぞれ読むんじゃないくて、この決め方を今からどんどん出していくんですよ。

(委員)

この中から選べというわけじゃないんです。

(委員)

それをみんなで一つずつカテゴリー分けじゃないけれども、そういう作業を今からするんですよ。どう進めようと思っはるんですかね。

(委員)

一応、新校名の今日は絞り込みというか、アイデア等が、今日は進めていきたいなと思っしておりますので。

(委員)

それをうまくここでカテゴライズをしないと、ここから進まないですよ。

(委員)

引き続きて言います。この新校名という中で、とりあえず今日ここで決めるという中で、なかなかしんどいように思っすわ。それで、今日はどんなつもりで集まったのか私もよう理解できていないんですけれども、やはり今日いろいろなご意見をいただいて、もう一回次に逃して新校名を持ち帰って、それぞれの地域に持ち帰って考えていただくというのが一番ベターやないかと、私はこう思っしております。

(委員)

今、委員がおっしゃったように、例えばですけれども、今回いろんなアンケートで新しいのがまきに出ているし、ただ今日決めるわけではないと思っはいて、要は生徒さんらも含めて投票するとも聞っはるので、あくまでここでやるのは絞り込みだと思っはんですよ。ここで決めるというのがまず第1段階。その絞り込みの方法なんですけれども、例えばですけれども、まきに今おっしゃったように、新しい校名を選ぶ、自分の意思として、全く関係ない新しい名前を選ぶ。ただ一方で、やっぱり地域に根ざした名前を選びたいところやと思っはるので、例えばまきにこういう紙がありますけれども、校名と通称の5案5案とあるので、例

えばここで、一つの案ですよ、ここで自分でいいなと思うやつを選んでもろて、ほんでここで投票して、それを集計を取って上位のやつを今度は生徒さんとかに投げて、そこで選んで、絞り込んでまたここで決めるという、そういうのがいいんちゃうかなと思うんですけどもいかがでしょうか。いきなりここで決めるのは絶対無理と思うので。

(委員)

もう一度、くどいようですけれども、これは、学校名を決めるということは、やはり地域全体のそれぞれの半分以上のご理解をいただいて決めたら一番ベターかなと、こう思っております。ここで出席されている方々も名の通る立派な方々でございますけれども、やはりこの地域、この生野あるいは田島地域から言うたら微々たる人数で、とりあえず大多数の方々が知らんところで今議論をやっておるわけですから、とりあえずこの校名を決めるとか、そういう大事なところを、1回やなしに1回、2回、3回議論して決めていくのがベターやないかと、こう思っております。よろしく申し上げます。

(三宅総務部学事課学校適正配置担当課長代理兼生野区役所地域まちづくり課地域活性化担当課長代理)

ご意見ありがとうございます。一応、予定としましては、参考資料3のほうを見ていただいてよろしいでしょうか。今この資料の中で色塗りしている②ですね、ここで、これは今日のことを書いておるんですけども、検討会議により公募した校名と通称案を複数候補まで絞り込むということを考えておまして、その後の予定としましては、絞られた校名・通称案を児童・生徒にアンケートを行うということで、アンケートにつきましては参考資料4になるんですけども、絞られたやつをずらずらと10個、学校名5つ、一般校名5つを書いたものをお渡ししまして、いいなと思うやつに丸をつけていっていただくと。5つのうちから3つを丸つけていただくというふうな形でやっていこうというふうには思っております、それをできましたら11月上旬にできたらなというふうには思っておるんですが、その結果をもとに11月下旬ぐらいに検討会議をまた開かせていただいて、その中で最終1つずつに絞り込めたらなというふうには思っておったところでございます。委員のほうからいただいたご意見というところもございまして、その対応について考えなあかんなというふうには思っておりますが。

(委員)

くどいようですけれども、この校名を決める、あるいは学校をどうするという事は、もっと議論を積み重ねてやったほうが一番ええかなと、こう思っております。拙速にやるとですね、やはり生南と田島両方のことやから、後で何かしこりが残ったり、そんなことにならんようにこれをやっていきたいなと。こういう議論はやはり今まで我々が知らんところで行われ、あるいは地域も何かつんむだしんに置かれて、何かわからんうちに決まったなとい

うようなことであって、地域の方々も非常に何か知らんけれどもおかしいなど、我々の知らんうちに誰が決めたんやというようなことになってまいりますので、これはよくよく議論して、やはり何か知らんけれども最初の出発点から、何か知らんけれどもちぐはぐ、ボタンのかけ違いとか、何か知らんけれども学校を一緒にするとか再編するとかいう話は、こそこそとやっているような、地域はそう思っております。だからこれは、やはり宇杉さんも私も地域の連合会長に推されておりますので、やはり連合会長は地域のことを、7割方8割方の意見を聞いて、集約してやっていかんことには、地域にも不満が残り、両方の不満が残り、ずっと遺恨になると。やはりあのときに田島の生徒が、いや生南の生徒が言いよったというようなことをずっと引き継がれていくということは、非常に教育上いいことがないんじゃないかと、こう思っております。

この議論はやっぱり議論を尽くしてやって、そして田島中学校の一番の気になるのは、田島中学校のグラウンドの特に校舎を建てると、これは誰が決めたのかようわからんけれども、何か無理があるような気がします。そして、やはりもともとずっと教育長にも言うてたとおり、もともと田島中学校のグラウンドは狭いんやというところで、なおさら、なおかつあんなところにグラウンドを建ててどないすんねんというようなことを、だいぶ僕も言うてまいりました。とりあえずこの既存の小学校2つがあるのに、田島中学校にまた校舎を建てると。これは何か知らんけれども自分の金やったらあんなことようせんなど、やはり自分の腹が痛まないからあんなことになるんちゃうかというようなことを言う人もございます。ということで、この議論はしっかりやって、地域の憂いのないようにやっていきたいなど、こう思っておりますので、よろしくをお願いします。

(委員)

大変貴重なご意見ありがとうございます。それにつきまして、事務局のほうからお願いします。

(大川地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長)

本当に繰り返しで恐縮ですけれども、それぞれ各学校・地域推薦という形ではありますけれども、いろんなものを背負ってこちらに出てきていただいているといったこと、本当に非常に申しわけございません。ただ引き続き子どもたちのためにということでご協力いただきたいと思っております。その上で、一つの、こちらは先ほど三宅のほうからありましたけれども、今回の方法は一般校区内で募集させていただいた名前、学校名をこちらで絞り込んでいただき、その上で生徒・児童投票をして、その後検討会議で最終アンケート結果をもとに決定いただくという説明をさせていただきました。もしこの中に、我々が余り口を出す話ではないんですけれども、こちらのこの場で今日絞り込み作業、今たくさんある中から5つとしたら5つ絞り込んでいただいたという内容を、できるだけ速やかに、これもまたニュースという形でお知らせするようなものをつくらせていただく予定なんですけれども、そちらのニ

ユースのほうで基本的には保護者に学校を通じてお配りします。あと地域のほうに回覧をお願いしたりします。そちらのほうで地域の中で、本当にいつ会議があるかとかというのはそれぞれあると思いますけれども、その地域の中で例えばこの今絞り込む案の中でどれがいいかとかといったご議論をいただいて、次回のこちらで言います 11 月下旬の検討会議、この際には生徒・児童のアンケート結果、それとそれぞれ地域ですとか PTA で何か意見があったこと、そういったことを踏まえて最終的に決定いただくというふうになればという形での一応スケジュールとさせていただいているつもりです。本当に連合振興町会のことに口を挟むというのはよろしくないんですけれども、イメージとしてはそういった形で回していただいているということをご理解いただきたいと思います。

(委員)

今、大川さんは回覧のことを云々言うてはるけれども、やはり回覧では、これはまたすつと見るだけで、流れるだけやから、やはり地域は地域でそれぞれの方々に寄っていただいて、事あるごとにこの問題を提起していきたいなど、こう思っております。私のほうも、今までから区長とあれやこれや言いもって、区長も地域のこととか何か言うてはったけれども、地域に来たかて、やはりこれは大体地域で区役所か本庁か以前来たときに、2 回ほど来ていますわ。地域でも議論したことはあるんやけれども、大体もうあかんというような形になってきておりまして、そしてやはり区長も来る来る言うて、何回も言うてはったけれども、やはりこれは地域の意見をまとめ、あるいは女性部長、町会長の意見も聞き、意見のことも聞き、そのための連合会長であるわけですわ。だからやはり連合会長が困ったときには、区長をお呼びして説明してもらおうと、私はこう思っておったわけですわ。でないと、何か知らんけれども、何やあの連合会長、せつかく頼りにしてるのに、頼りないやっちゃなど、自分よう説明せんから区長連れてきよったなど、こういう形になってもいかんし、だから私は別に連合会長に推されてさせていただいているけれども、こんなもの煩わしいというか、この学校再編のことで特に煩わしいですわ。だから早く言うたら、こんなもの進んで、何でもないように思いますけれども、やはり役目上この問題は解決して、ずっと率いていきたいなど、こう思っております。途中でやっぱり投げ出すっちゃうのも私の本意にもないので。いっぱい出てきてどうやこうや言うのも実際煩わしいですわな。だから地域は地域で何とか話をまとめてやっていきたいと、こういう思いでいっぱいですわ。いっばいやのに、何々広報紙にしたかて、何したかて、さも学校再編のことがまず決まったようなことを書いてあるというようなことで、地域の不満も高まっております。これはそういうことであるということをおきます。

(委員)

どうぞ。

(委員)

今日絞り込みの作業にまだ全く入れない状況で、私は地域の方と子どもたちと一緒に上がってきたこの案を、今日どこまで絞り込めるかはわからないけれども、深めるような中身をしっかり見ていきたいというようなことは、今日できることがあると思うので、その辺、荻田さん、消去法じゃないいろんな意見をプラスに出しながら、絞り込みっていうよりは、今出ているものを深めてというようなことはできるんじゃないかなと思って。ただ紙面で見ただけじゃない、そういう作業は今日できるんじゃないかなと思うので、それを共通理解にしたら、こういうところから出た学校名なんやなとか、そういうのがわかりやすいかなと思うんですけども。荻田さんが思ったださっている学校名の進め方というか、それを私はしていただけたらなと思っているんですけども。

(委員)

大変貴重なご意見ありがとうございます。そこへ入るまでに進んでいる最中なんですけれども、先ほど荻田さん、岩井会長のほうから2点、全く新しい校名にする、地域の関わりであるから地域等の名前が入ったほうがいいんじゃないかというご意見、その他の今の3つ目の、参考資料としてご意見をお伺いするんで、その件に関しましてどなたかご意見ございませんか。

(委員)

名前が挙がりましてので、進め方についてなんですけれども、さっき委員がおっしゃったように、消していくという作業というよりも、みんなで理解を深めながら、言葉で言うと先ほどおっしゃったようなカテゴリー分けみたいなものをしながら、みんなでカテゴリー分けしていくと、すごくこれはこういうくくりで、こういう理由でとか、こういう気持ちでというところが皆さんで共通理解を得られると思いますんで。

(委員)

前に書きますかね。

(委員)

15分ほどマイクをお借りしてよろしいですか。

それではディスカッション形式で、気持ちを楽にして自由闊達にと思いますので。皆さんネクタイとかなくていいですかね。俺だけやんけ。あんまり格式ばった議論にせんと思います。

ざっくり言うと、学校名から一回話をしていきましょうか。2つなんですけど何かいいのはありますか。

(「現在の学校名やそれが組み合わさったもの」、「地名、住所」、「かわいらしい名称」、「学園がつくもの」、「生野区の花のあじさいが入るもの」等のカテゴリに案を分けて、ディスカッション)

(委員)

そろそろにしましょうか。

(委員)

ここへ書いてもらって。

(委員)

書く。

(委員)

いやいや、自分の好みのやつ。

(委員)

ここで今言うんですか。

(委員)

いや、提出するねん。

(竹中生野区役所地域まちづくり課担当係長兼教育委員会事務局総務部教育政策課担当係長)

投票しましょうか。

(委員)

候補案で。集計というか、この場でここで今集計されますか。

(竹中生野区役所地域まちづくり課担当係長兼教育委員会事務局総務部教育政策課担当係長)

委員の中で意見の多いのを出していただいて。

(委員)

今それぞれ書いてみましょうか。5つ出してみましょうか。

(竹中生野区役所地域まちづくり課担当係長兼教育委員会事務局総務部教育政策課担当係長)

3分間でいいですか。

(大川地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長)

皆さん、済みません。それと追加の説明なんですけれども、小学校の名前の正式名称は「大阪市立〇〇小学校」という形になりますので、よろしくをお願いします。

(竹中生野区役所地域まちづくり課担当係長兼教育委員会事務局総務部教育政策課担当係長)

投票用紙のほうにはお名前もご記入のほうをお願いします。お返ししますので。

全会一致じゃなくてもよしとしましょう。

(委員)

よしとしてください。

(大川地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長)

もう皆さん出されましたでしょうか。そうでしたら、座長失礼します。今この前で集計をしている間に、報告になっています先日の学校環境等専門部会の報告を今させていただいてもよろしいでしょうか。

(委員)

はい。

(大川地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長)

失礼いたします。資料の一番最後に右肩に報告資料ということでつけさせていただいております、前回の検討会議で提案申し上げまして設置しました学校環境等専門部会第1回を先日20日に開催いたしました。資料はございますでしょうか。その専門部会の中でいろいろご意見・ご議論いただいたところです。簡単に概要のほうをまとめさせていただいております。

まず概要に書かせていただきました1つ目のものにつきまして、部会の位置づけですね。こちらについてご意見を頂戴して確認をさせていただいたところです。

2点目の安全安心な学校環境づくりの取り組みとしてということで書かせていただいております。今回、増築工事に入ってまいりますけれども、実際に今現在中学校の中、周り、校地内、こちらのほうを保護者の方に協力いただいて、校内の見学を実施して、危険な場所がないとか、そういった確認をしてはどうかといった意見を頂戴しました。こちらについて

はまた学校長のほうと調整をしてみたいと思います。

中庭への遊具、芝生等の設営について、どのようなことができるのかといったこと、こちらについてご意見をいただいています。

この辺で、今、実際に専門部会に参加いただいていますのが、3名の委員の方だけです。またそういったいろんなご意見を頂戴するために、またこの専門部会にも参加のほうを願いをさせていただきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

次が、今回校舎を増築することに当たりまして、今、中学校は一足制ということで、要は教室まで下足のまま入って、教室入るときに履きかえるという形なんですけれども、二足制を導入するといった予定になってございます。例えば今回二足制を導入するに当たりまして、下足スペースをつくるんですけれども、入ったところからそこまでの動線、そういったところが明確にご説明できる状態にございませんでしたので、その辺をまた整理させていただくといったこと。

またその下、今それぞれにあります記念植樹ですとか物、物というののもあれですけれども、そういったものの移設が可能かどうかといったことを整理をさせていただくことになっていきます。

あと、現在図書室、新館の4階になっています部分、こちらにつきまして小学校用、中学校用として2カ所に分離することですとか、また追加で機能の設置等、そういったことが可能かどうかといったこと、こちらを整理させていただくといったことをご議論いただいたところです。

繰り返しになりますけれども、今後安全安心な学校環境づくりについて、きっちり意見を頂戴しながら、どういった対応を取れるかといったことに取り組んでまいりたいと思いますので、部会の委員の皆さんにはまた引き続きよろしくお願いしますと思います。先ほど申し上げましたとおり、今、部会は3名の委員の方でさせていただいていますけれども、また改めてそれぞれ出ていただきます。特に保護者の方ですとか個別にお願いさせていただくこと等あると思いますので、よろしくお願いします。

簡単ではございますけれども、先日の部会の報告につきましては以上です。

(委員)

今の話題が、それでもう説明が終わりなんだったら、意見を今言ったらいいですかね。後で言ったほうがいいですか。これはまだいいんですか。

(大川地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長)

今ぜひどうぞ。

(委員)

今言っているいいですか。私はこの部会に出て、今これは概要ということだったので、報告と

してプラスアルファあった部分を、概要になっていない部分を言わせてもらいます。

通路をつないでほしいなということで、2号館のほうと新棟、それをつなげないということだったんです。それは2号館の壁が耐震的な壁になっていて、それをぶち抜けないということで、どうやってもできないということでお話が出ました。いろんなやり方がないんかということだったんですが、でもそれをおっしゃるならば、最初からここは不可能ですよ。通路はできないということになっていた、アクセスがすごくいいと言っていたけど、ここはつなげませんということが最初から決まっていた。こっちの壁も、2号館・3号館も両方ともその壁になっていてつなげなかったということだったのに、それは後づけで出てきて、こういう理由でできないということを今言われる。それを、本当にこれを検討する段階のときに、ここはつながってはない、つなげられないということは、これだけアクセスをよくして、真ん中に建てて、右に左に行ったり来たりができるようなことを言われていたけれども、結局それは壁が絶対不可能やということやったんやということは今ここで言われる。これだけ聞いたらやっと言われるという状況については、ちゃんとこれを検討するときに出してくださっていたら、この新校舎はそんな便利なものと言われるけれども、その部分は難しい部分だったんだなということで検討する一個になっていたはず。それを出してくださらなかったんやな、後出しなんやなまたというふうに一箇まず思って、納得はしていませんけれども、できないできないという話だったけれども、話は一応聞きましたということで、この間の部会は私は承知したというか、それで納得はしていませんが、なっているということと、職員室は私は2階を最初の、今の中学校の場所に何とかできないかということやったんですけれども、それも真ん中に耐震壁が、耐震壁ですね。

(二川総務部施設整備課老朽対策担当課長代理)

耐力壁ですね。

(委員)

耐力壁が入っているからぶち抜けないみたいな話だって、真ん中に職員室があることで、両方の運動場が見られるということを言われたりしたんですけれども、防犯の面で、この間出た話の中では、正面玄関から入って、ピンポンを押して来訪者がやって来る。その来訪者の方が職員室にたどり着くまでに、たくさんの教室やら、子どもの教室なんかを経ないとそこまで行けないところに職員室・事務室などがあるということについて、今の中学校、それぞれの小学校とかで、ピンポンを押して、まずそういう職員室とか事務室とかで対応というのがあったけれども、その位置的な問題で、それってピンポンを押して入ってくる人が結構教室とかを通れる状況というのは、今までの棟と違う状況やなと本当に思って、怖い面もあるし、その距離というかは、今回そうやって聞いてみてすごく感じました。なのでその部分について、それを考えても私は1階の場所でいってほしいと思うんですけれども、それについての正面玄関付近での対応がもちろんできないといけないし、そういう部分を、すご

い今回のこの建て方というのはそういうことも怖いかなというのもすごく感じました。すぐに対応してもらえるといるところで、来訪者もそこまで上がってくるのに遠いし、それだけの距離を歩いて子どもたちの教室を歩いていくみたいな状況があるんだと、それも感じました。

それもどうしていくのかということも考えていただきたいなと思いますし、下足スペースも給食室の裏ということは、正面玄関から小学生はやって来て、中は一応上靴で過ごせるようにということだけでも、給食室の裏の下足スペースに行くまでに、結局2号館の前の、だから今の職員室とかあるところの棟を下靴でトコトコ歩いて、給食室の裏の新棟の下足スペースまで行くというのは、やっぱりかなり歩くし、そこで上靴の子と下靴の子の両方の行き来の場所になってしまうようなこともあるので、その辺も対応は考えてもらいたいなと思いました。

その辺、いろいろとここには出ていませんけれども、そういうことはちゃんとすべきだったことが伝わっていないという、でもこれでいきますという感じでなっているというのは、今さら聞かされて、それってちゃんと出ていたら、そういう建物なら難しかったよねとなる部分がいっぱいあったやろうなとやっぱり思ってしまう。できない理由が後から出てくるというのは本当にずっとこういう感じだなと思っていますので、その中でできる可能なやり方であったり、そういうのはもうちょっと考えて、これからできることで、できませんという中ででもちゃんと考えてもらわないと本当にいけないなと思っています。

(委員)

それではそういう点でよろしいですか。

補足なんですけれども、私もこの環境部会に入っている立場上、皆さんの意見を聞かせてほしいなと思ってマイクをお借りします。

新しい下足スペースが皆さんどこにあるかご存じですかね。動線について、体育館の前、講堂の前が下足スペースになっているようなんです。おわかりになりますかね。ここまで要は土足で上がるんだけれども、でも二足制で、スリッパで校舎内は歩くんだということで、これはまぜこぜになるよねという指摘があったので、ほんまやな思いましたね。

確かにそれは余り維持、保つことができへんなと思ったんです。それと絡んでの話なんですけれども、この下足をできるだけ玄関のほうに持って行って、玄関に入ったらすぐに下足履きかえになった場合、その場合というのはこの中庭を、要は下足じゃない、芝生化して、スリッパで歩くことができるんじゃないかなという話を皆さんにお聞きしまして、そういう案、要は芝生化すると、人工芝なんですけれども、そういうのはいかがかと思ひまして。要は保護者の目線として、やっぱり土のほうがいいよねとか、くつろげるような芝生があるといいよねとか、イベント的にはやっぱり土がいいよねとか、何かありましたら、いただけますか。

(委員)

中庭全部を芝生化する。

(委員)

土足じゃないスリッパスペースにするということが可能なんじゃないかということで、意見が挙がりましてね。

(委員)

芝生は水はけはいいのでしょうかね。

(委員)

いかがでしょうか。

(委員)

びちゃびちゃのままずっとというのはなかなか。

(委員)

人工芝用の下地でやらんと、排水できへん。

(委員)

もし乾いていると思って行ってびちゃびちゃなっただっていうのがあるそう。

(委員)

水はまかなだめなんです。東桃谷小学校は。

(委員)

人工芝。

(委員)

夏場暑いわ、人工芝は。

(委員)

夏場暑いという意見ですね。

(大川地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長)

委員、補足ありがとうございます。私の説明が非常に雑駁過ぎてあれなんですけれども、

今ありました校舎のつなぎの話ですとか、そういった議論をいただいたところです。今の中庭の関係につきましては、3点目に書かせていただいています。今、委員からおっしゃっていただきましたけれども、部会の中で3名参加いただいている中で、例えば本当に人工芝がいいのか、もしくは本当に土のままがいいのか、そういった3名の方の意見だけで方向性を決めていいのかといった、そういったご不安の声をいただいたところです。こういったこともありまして、保護者の方ですとかそういった方に部会への参加をまた改めてお願いさせていただこうというふうに思っているところです。

ちなみに人工芝の場合ですと、私の聞いている話と申しますか、私も個人的には人工芝は非常に夏場暑いというイメージを持っていたんですけれども、今はそんなに暑くない形の人工芝もあるという話も聞いています。特に水はけの問題も、そういうのも対応が可能という話もありますので、その辺も具体的に専門部会の中で、例えば人工芝だったらどうなのか、もしくは陸上競技場にあるようなゴムチップの底というか、路面、地面というか、そういったものだったらどうなのかとか、そういったものはご意見をいただいて議論していければなというふうには思っています。ただ、私の勝手では言うわけにいきませんので、また教育委員会とも相談しながら、どういったことが可能かというふうにはなっていくと思っています。

(委員)

それではその流れで、教育委員会、それから区役所の皆さんには、そういった技術情報とか、事例とかをいろいろお示しいただきたいなと思いますし、また校長先生方には動線関係、要は学校のマネジメント上でいろいろメリット・デメリットがあると思うんです。本来下足スペースはどこにあったほうがいいのかも含めて、動線的なそういったご意見を一度ご検討の上いただきたいなと思います。委員の皆さんには、ご出席もなかなか大変でしたら、私とか北山さんとか大倉さんとかに意見をどんどんしてもらえたら、それを反映して、次の環境部会に持っていきますので、また意見をいただきたいなと思います。

(大川地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長)

こちらにも書いていませんで、当日委員から実は提言いただいている内容がありまして、それが2つ目に書いています、安全安心な学校環境づくりといったことで、いろいろといただいております。この中に、例えば正門を入れてからそのまま、先ほど委員からも、そのまま自由に中に入っていけるんじゃなくて、そこで待機するようなスペース、来訪者が待機するようなスペースをつくってはどうかといったご意見とか、そういったものもございます。そういった内容を今後部会の中でしっかりと議論していきたいと思っています。

それと、あと先日のこの部会の議事録につきましても、時間がかかっておりますけれども、できましたら当日の資料と議事録は委員の皆さんにはお渡しするようにしたいと思いますので、よろしくをお願いします。

(委員)

それでは集計できたようなので、また後日皆さんにプリントを配布させていただきますけれども、多い順番から言うていきますね。学校名、田島南小学校というのが8件、その次に南田島小学校というのが4件、田島小学校というのが3件。2件が生野田島小学校、あじさい小学校というのがそれぞれ2件ずつ入っております。それでは通称名では、南田島小中一貫校、田島小中一貫校、小中一貫校田島学園が3件入っております。それで2件のほう、田島南小中一貫校、それと生野あじさい学園、小中一貫校あじさい学園がそれぞれ2票で入っております。その他、見えるかどうかわかりませんが、1票ずつ入っております。

(委員)

その小中一貫校をつけるつけないで票が分かれておるんで、それを一緒にされてはいいがでしょうか。頭に小中一貫校がついていたり、ついていなかったりするんですけども、ついていないのは票としては分かれているんですけども、これは一緒にしてもいいですかね。例えばあじさい学園と右に一つありますけれども、左のほうには小中一貫校あじさい学園が。これは3になるんじゃないかなど。私はそんなつもりじゃないという人がいらっしやったら。そこは一緒にいいと思う。

(委員)

ごちゃ混ぜにせんほうがよろしいわ。これは票として投票してくれはってんから、一応そのままで。

(委員)

でもそれだけもうちょっと出し合いませんか。

(木村生野南小学校長)

一番ええなと思っているやつがどれかが知りたいですよ。5つ書いているから、多分皆さんこれが一番よくて、5番目これやなという、みんなが5番目に書いたやつが票数多くてもいいのかなというのが気になりますよね。

(委員)

無難やから票を集めているやつと。

(木村生野南小学校長)

だから、何となく4つ考えたからあと1個もうこれでええかというやつが3票取っているのかも。それやったら意味が違うのかなという気がしますけれども。左側も同じく。だか

らぶっちゃけ皆さん一番ええんこれ、なんで僕が言うあれでもないです、部外者やから。知りたいたいなど。何がええ。

(委員)

一番ええやつは2点ぐらい入っているぐらいのことですよ。

(木村生野南小学校長)

そのほうがわかりやすいんじゃないかなと。やってから言うて済みません。

(委員)

それではとりあえず学校名として、田島南、南田島、生野田島、田島、あじさい、これで一応皆さんにアンケートをまた、小学校の生徒さんですか、アンケートを取るんですね。通称名は田島南小中一貫校、南田島小中一貫校、田島小中一貫校、小中一貫校田島学園、生野あじさい学園、小中一貫校あじさい学園、これをノミネートさせてもらって、1票のほうはとりあえず外すことになります。

(委員)

今の意見やったら、済みません。生野南の校長先生が言ってくれたこともあるし、微妙に似てるけれども1票になっているものは、今1票とされてしまったけれども、そこが同じにできるような、小中一貫校、それぞれの今のこだわりというか、これをあえて小中一貫校田島学園にするのかというところで、前にそれを持ってきた人とそれがどうなんかみたいところは、今聞ける部分もあるので、そこで一緒にできたら、それは3票とか4票になるかもしれないものがあるということをおっしゃってくださったので、1票は1票だけでも、そういう部分を今このメンバーは一緒にしたり考えたりができるまだ状況もあるので、それぞれ1票になってしまっている部分が生きていないんじゃないかというご意見がまずあったので、ちょっとだけ投票をよく見て整理したり、それとそれぞれの何を1位というふうに思われたかわからないんですけども、何個かを同じぐらいに思ったかもわからんけれども、意見をもうちょっとだけ吸い上げませんか。じゃないと、今日本当に5つの候補が決まってしまうというふうにするならば、本当は結構大変なことなので、投票で終わりということではない投票やったはずなので、ですよ、これで決めるための投票じゃないですよ。これをたたき台にするんですよ。だからもうちょっとだけ整理というか、皆さんの意見とかを上げながら整理しませんかね。

(木村生野南小学校長)

あともう1個だけ言うと、田島小があつて生野南がないというのは、やっぱり見たときにえつとなれへんかなという。小学校の。

(委員)

私も絶対そう思います。だからそれももっと考えなあかんしね。

(木村生野南小学校長)

だからそれでいくと、その2個はもう入れておいたほうが無難なんかなという気はしますけれども。めっちゃめっちゃ、いっぱい言うて済みません。もう黙っておきます。しゃべり過ぎた。

(花月総務部学校適正配置担当課長兼生野区役所地域活性化担当課長)

本日は5つアンケートのために選んでいただきたいということをご説明のところでも申し上げましたけれども、この5つにこだわっておりませんので、アンケートしやすい数であれば結構かなと思っております。

(委員)

5にもこだわらなくていいということですか。

(委員)

何か自由闊達に言ってもらったら。

(委員)

小学校名からどうですかね。この、今、校長先生からいただいた意見も本当にそのとおりやと思うし、田島だけが挙がるのはおかしいことやと思うし、だからここで今意見を出していったらどうですかね。

(委員)

田島は田島であつてもええんやろ。それはOKなんや。

(委員)

でも田島だけあつて、意見を聞くときに生野南さんがなかったら、やっぱり委員の方があれなんで絶対入れないと。

(委員)

でもそこ、決選投票じゃないけれども、田島か生野南かと両方混ぜていないので。

(委員)

決選投票、これは一応アンケートやから。

(委員)

だから田島南となると、そっちがいいと田島の方はそりゃ田島に丸するやろうしとなる。

(委員)

入れるかなくすかでしょ。

(委員)

そう。だから私は、そうそう、そうやね、田島だけ残すなら生野南を入れるべきやし、どっちかを書くのに、それは田島の子は田島と書くやろうみたいなことならば。

(木村生野南小学校長)

一応入れておいてでもええんかなと。

(委員)

入れんほうが私はええと思う。

(委員)

でも田島は地名が田島やから。

(木村生野南小学校長)

僕も両方入れておいたほうが納得いくんじゃないかな。そこに入っていて外れるのは別にええけれども、そもそも入っていないというのが気になるんかなという。

(委員)

でもこれが例えばどちらかに選ばれて、ほうとまらないようなものは、私は入れんほうが、田島を入れて田島となっていていいのということになりますよね。生野南が完全に消えてしまって、田島小学校という、新しい名前がそうだとされたときに、それが何かなるようなものは私は入れんでいいと思っちゃうけど。

(木村生野南小学校長)

なってもええんちゃいます。別にみんながそやったら。

(委員)

田島小学校にして小中が生野南になったらそれはそれでええ話。バランス的には。別にそ

こはもう。

(委員)

逆に田島小学校にしてほしいという意見が余りにも多くて。地名もあってね。だからそれを消すといったらよほどのことやなど。何でないのと。これを消すわけにぐらいの数量が集まっている。

(委員)

でも田島が選ばれても何かよくなっていいですか。何か変な感じするんやけど。

(委員)

それはみんなで決めたんやから。

(木村生野南小学校長)

田島選ばれて、生野南学園でも全然おかしくないです。それがあるので。

(委員)

こっちがそうならばですか。生野南学園。

(委員)

例えばね。そうしたら生野南も納得するんじゃないかなという話。

(委員)

多いから言うてこれにまだ決定せえへんやろ。アンケートの段階やから。

(委員)

何かほかにキラリと光るものはあります。これは入れておこうよとか、これはまとめましょうよとか。

(委員)

こっちはそんなにいろいろ出ていないんですか。

(委員)

もう一回見てください。

(委員)

とりあえず田島南から、一番上から。

(木村生野南小学校長)

6個でええんちゃいます。

(委員)

これでええかな。例えばそれじゃあ通称のほう行ってみましょうか。ほんなら、6個でいいのであれば、複数案ですかね。それを一回囲ってもらっていいですか。

(委員)

まず票だけで選んでもらって。田島学園が3。あじさいが、でもいっぱいあるか。

(木村生野南小学校長)

こっちは、だからもし田島小になったときのバランスを考えたら、生野南学園か。それで言うたら1票ずつ入っているから、何となくその名前を使うやつを1個。

(委員)

組み合わせをする。組み合わせで一回提案してみる？

(委員)

票が多いからそれやということではなく、最終的には話し合いだから。

(委員)

生野南が先にくるやつは、生野南小中一貫校じゃなくて生野南学園。

(委員)

そのほうが、みんなが小中一貫校は硬いとおっしゃっていたので、学園のほうがいいんだったら。というか、本当に田島小中一貫校が入るんやったら生野南も入れてあげてほしいなという気持ちです。

(委員)

それはクロスで案としては、2つならべていけるね。

(竹口田島小学校長)

小中一貫と生野南学園。

(花月総務部学校適正配置担当課長兼生野区役所地域活性化担当課長)

あじさい学園が、票が割れるかもしれない。

(委員)

そうそう。それをどうにかしないといけない。

(委員)

生野と言ったら、あじさいは生野というふうに、要はあじさいという言葉に生野の気持ちを込めているのであれば、下に集約してもええかもしれない。

(木村生野南小学校長)

もうかぶせなくてもいいという。

(委員)

時間も押してしまして、一応学校名・通称名が決まりましたので、またこれで前に進めて、アンケート等のこれにさせていただきます。それではもう他に、何かその他の項目で。

(三宅総務部学事課学校適正配置担当課長代理兼生野区役所地域まちづくり課地域活性化担当課長代理)

アンケートのほうですが、一応今日決まったやつを落とし込んだ上で、学校のほうには来週木曜日ぐらいにはお届けしまして、学校のほうでまず張り出しをしてもらいます。張り出しをもらった上で、1週間程度の時間で、生徒さんのほうから出してもらうというような形でいこうかなというふうに思っております。なので、来週にお渡し、再来週に回収できると。

(委員)

どうということ。ちょっと待ってください。それをもう一回、どの週でどうなんか言ってください。

(三宅総務部学事課学校適正配置担当課長代理兼生野区役所地域まちづくり課地域活性化担当課長代理)

来週木曜日ぐらいには、29日には学校のほうにお渡しして、校内に張り出し等をしていただいて、それが月曜日ぐらいになるんですけども、月曜日ぐらいにやっていただいて、1週間かけて生徒さんのほうから回収していただくと。

(委員)

大体のイメージ、それが何日までの週みたいなことですか。

(三宅総務部学事課学校適正配置担当課長代理兼生野区役所地域まちづくり課地域活性化担当課長代理)

1週間ですから。

(委員)

6日ですか。2週間と言うけれども、6日というのは1週目ですよ。張り出してから1週間やから6日です。

(三宅総務部学事課学校適正配置担当課長代理兼生野区役所地域まちづくり課地域活性化担当課長代理)

9日の日に回収します。あとはまた整理させてもらった上で、次回の検討会議のほうでご報告差し上げるという形でいきたいと思います。

(委員)

それでは本日は皆さん、

(三宅総務部学事課学校適正配置担当課長代理兼生野区役所地域まちづくり課地域活性化担当課長代理)

ごめんなさい、もう一点。

(委員)

まだある。済みません。

(三宅総務部学事課学校適正配置担当課長代理兼生野区役所地域まちづくり課地域活性化担当課長代理)

通学路の安全対策につきまして、安全点検のほうを、今現在は生野南小学校区では9月の26日と10月の1日、田島小学校区では10月13日に実施しておりまして、あと明日なんですけれども、また2回目の安全点検を実施する予定ということになっております。明日の安全点検以降、また専門部会のほうを開催してまいりたいというふうに思っておりまして、また専門部会を開催いたしましたら検討会議のほうに報告をさせていただくというふうに思っております。よろしく申し上げます。

以上です。

(委員)

それでは本日はお疲れ様でございました。大変有意義なご意見をいただきました。ありがとうございます。それではまた次回、お忙しい中またご参集いただきますようお願い申し上げます。それではどうもありがとうございました。

(竹中生野区役所地域まちづくり課担当係長兼教育委員会事務局総務部教育政策課担当係長)

皆さん済みません。次回の検討会議なんですけれども、ここで日程確認だけさせていただきたいと思います。来月以降になりますけれども、12月の4日金曜日なのですが、皆様ご予定のほうはいかがでしょうか。大丈夫ですか。

(委員)

11月がないということですか。

(竹中生野区役所地域まちづくり課担当係長兼教育委員会事務局総務部教育政策課担当係長)

11月は日程のほうが合わなくて、済みません。

(委員)

11月は、部会はなさいますか。

(竹中生野区役所地域まちづくり課担当係長兼教育委員会事務局総務部教育政策課担当係長)

部会は、またそれは改めて調整させていただくということで。

(委員)

基本的には、例えば12月4日やったとしたら、それまでに部会をするということ。

(委員)

名前は結構寝かされるんですね。アンケートは上がるけれども、寝かされるというか。

(委員)

1か月はないけどな。

(委員)

だって11月の始めにはもう決まって、12月まで。さっき気になっているんですけども、さっき岩井さんが言われたように、岩井さんはこのことを今日ほんまに決定じゃなくて、

本当はもっともっと練らなあかんような話やということも言われて帰られているんです。なので今日のこの候補は候補で、今日ここで話したことをしっかり、そうやって地域の方にもしっかり、こういう感じで候補が出てこういうふうになったよということを伝えてもらわないとは思っています。その後でまたアンケートというか投票するというところで、そちらのほうからでそこをちゃんと先にしっかり言ってほしいと思います。

(大川地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長)

さっきのスケジュールは、今回は12月4日としたら、もう少し、それは児童・生徒投票はそのままです。

(花月総務部学校適正配置担当課長兼生野区役所地域活性化担当課長)

延ばしてもいいですよ。

(委員)

延ばしてもいいですけども、投票という言葉はやめておきましょう。アンケートかモニタリングとか、そっちのほうでお願いします。延ばして、先に地域ということですか。

(委員)

それを先にして、了解というか、ちょっと得てもらってから、そこを早くはしないで、そこをやってから、投票の期間は今ぐらいの適度な感じでいいんですけども、その前をしっかりやってからこのアンケート集計に入ってほしい。

(大川地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長)

だから地域に回覧が回る期間というのはやっぱり時間がかかると思うんですけども、回覧が回りだしていない状態で先にアンケートが回ってというようなことができるだけないというふうに今受けとめていますので、ニュースのほうを急いでつくらせていただいて、保護者の方、地域の方、そちらへの周知ができるように頑張りたいと思います。

(花月総務部学校適正配置担当課長兼生野区役所地域活性化担当課長)

例えばそのアンケートの学校に張り出しの時期をおくらせても。

(大川地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長)

なので、地域とか保護者の方に行く前に、子どもに先に行くというのは避けるようにやりたい。

(委員)

来週にもそれをするような感じやったので、それより先にそっち側をちゃんと周知したり、みんな知っていますという状況をつくってほしい。

(花月総務部学校適正配置担当課長兼生野区役所地域活性化担当課長)

そうしましたら、地域の方々に周知が済んだ後に、学校のほうに掲示をして、子どもたちにアンケートを行うということで、先ほどのお話を改めさせていただいてよろしいですか。

(委員)

バランスよくそっちを、まず優先順位をちゃんとしてからしてほしい。

(大川地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長)

そのスケジュールはまた委員の皆さんに個別にはご連絡を差し上げるようにはしますので、済みませんがよろしくお願ひします。

(委員)

それと先ほどの4日の会議はどこで開催。

(竹中生野区役所地域まちづくり課担当係長兼教育委員会事務局総務部教育政策課担当係長)

4日は生野南小学校のほうで予定のほうをさせていただいておりますので、よろしくお願ひします。よろしいですか。済みませんが。それでは12月4日ということで次回またよろしくお願ひいたします。またご案内のほうはさせていただきます。ありがとうございます。

6 確認事項等

- ・光山委員が退任し、今回の検討会議より、岩井委員が新たに就任する。
- ・新たな小学校の校名の候補を「田島南」、「南田島」、「生野田島」、「田島」、「生野南」、「あじさい」の6案とし、小中一貫校の通称の候補を「田島南小中一貫校」、「南田島小中一貫校」、「田島小中一貫校」、「小中一貫校たしま学園」、「小中一貫校あじさい学園」、「生野南学園」の6案として、児童生徒を対象としたアンケートを実施する。
- ・児童生徒へのアンケートの実施に先立ち、保護者、地域住民に対して、校名案、通称案の絞り込み結果について情報発信を行う。それに伴い、参考資料3のスケジュールから、アンケートの実施予定を後ろ倒しとする形でスケジュールを改める。
- ・次回の検討会議は12月4日（金）の開催とする。

7 会議資料

- ・次第
- ・議事資料 校名案等検討資料

- ・参考資料 1－1 校名案（50音順）
- ・参考資料 1－2 校名案（分類）
- ・参考資料 1－3 校名案（ふりがな、理由）
- ・参考資料 2－1 通称案（50音順）
- ・参考資料 2－2 通称案（分類）
- ・参考資料 2－3 通称案（ふりがな、理由）
- ・参考資料 3 校名案等の進め方
- ・参考資料 4 児童生徒アンケート用紙（ひな形）
- ・報告資料 学校環境等専門部会（第1回）開催結果